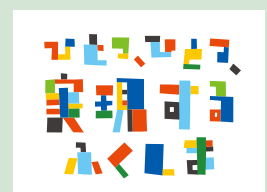


林業福島

No. 726

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小檜山善継



2

2025

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 春 雪 の 中 で



未来を担う子どもたちのために

福島県市長会会長
相馬市長 立 谷 秀 清

昨年も多くの方々がこの地で林業に携わり、地域経済の発展と環境保全の両立のため多大なご尽力をいただいておりますことに、この場をお借りして御礼を申し上げます。

ここ福島は、木々の緑豊かな広大な森林資源に恵まれた地域です。特に林業は、私たちの生活に欠かせないものであり、地域経済の根幹を支える重要な産業です。私たちはこの貴重な資源を大切にし、さらなる活用方法を模索しつつ、持続可能な林業の実現を目指してまいります。また、未来を担う子どもたちへより良い環境を引き継ぐために、森林保全活動や植林事業を強化していく所存です。さらに、近年注目されている木材の多面的利用を促進するため、県産材の普及啓発や流通促進を一層推進していきます。特に、地元産材を使用した公共施設や住宅建築の推奨を通じて、地元企業の活性化や雇用創出に繋げていくことで、福島県内の林業従事者の皆様の就労環境も改善と、安定した生産体制の確立を目指してまいります。

一方で、最近では、気候変動による大雨などの災害リスクが増加し、全国で深刻な被害が発生しています。林業の発展と持続可能な森林経営が、ますます重要となっています。森林には、自然災害の防止、生物多様性の保全、二酸化炭素の吸収による地球温暖化防止など、多くの役割が存在しております。私たち基礎自治体も地域の皆様と協力し、森林の保全と維持に、今後とも、取り組んでまいります。また、現代社会では少子高齢化が進み、労働力の確保や担い手の育成が大きな課題となっています。そのためには、次世代を担う若者たちが安心して働ける環境を整備し、林業の魅力の発信に努めてまいります。

今後、森林環境整備に対する国民の関心が高まると考えられます。福島県市長会としても県や関係機関と協力しながら、森林・林業の持続的かつ健全な発展のため取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら	林業アカデミーふくしま研修日誌⑨…………… 7
未来を担う子どもたちのために	普及指導員通信…………… 8
福島県市長会会長 相馬市長 立 谷 秀 清… 1	福島県林業労働力確保支援センターだより … 9
山火事防止に努めましょう…………… 2	木連だより……………10
林業研究センターだより…………… 3～4	木の文化を育む⑦……………11
21世紀の林業を担う林業後継者養成セミナー	木材市況・ふくしま東西南北……………12
に参加して…………… 5～6	はなしのひろば・お知らせコーナー……………13

山火事防止に努めましょう

山を守るよう 火の手から

福島県森林保全課

○山火事が多発する季節

例年、冬から春にかけて山火事（林野火災）の発生が多くなります。

これは、林床に枯れ草や落ち葉など燃えやすいものが堆積していることに加え、空気が乾燥する状態が長く続くことが要因とされ、一度出火すると短時間に燃え広がり、初期の対応が遅れると大規模な山火事に発展する恐れもあります。

また、暖かくなるこの時期は、農作業が始まる時期とも重なり、田畑や自宅の周辺などの片付けなどで、火を使用する機会が多くなることが原因として挙げられます。

県内では、令和五年に発生した四二件の山火事のうち三五件が、一月から五月の間に発生しています。

※1

また、同年三月八日には郡山市中田町と白河市小田川で大規模な山火事が発生して、地上からの消火活動

に加え、ヘリコプターによる空からの消火も行われましたが、鎮火するまでに数日を要しました。

○山火事の発生原因

全国で令和五年に発生した山火事は一、二九九件であり、その原因で最も多いのは「たき火」四一六件、次に「火入れ」二四七件、「放火の疑い」六四件、「たばこ」四九件などとなっております。※2

県内で令和五年に発生した四二件は、そのほとんどがたき火などからの飛び火が原因となっております。※1
なお、近年は放火や放火の疑いのあるものも目につくようになってきます。

このように山火事の発生原因は人為的要因によるものが圧倒的に多くなっています。

○山火事を発見したら

山火事の消火活動は、市街地の火

災に比べ、道路、水利、地形などの条件から非常に困難であり、自力での消火は大変危険です。令和五年の全国の林野火災による死傷者は一五人となっております。※2
山火事が発生したとき、また見つけたときには独りで消火を試みず、直ちに消防署へ通報するようお願いいたします。

○山火事を発生させないために

山火事を発生させないためにも、私たち一人ひとりが次のことに注意をして、山火事予防に取り組みましょう。

- ① 燃えやすいものがある場所では、火気の使用を控えること。
- ② 強風及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと。
- ③ やむを得ず火を使用する場合は、火気のそばを離れず、使用後は完全に消火すること。
- ④ 火入れを行う際は、市町村長の許可を必ず受けるとともに、十分な実施体制をとること。
- ⑤ たばこは指定された場所で喫煙し、吸い殻は必ず消すとともに投げ捨てないこと。
- ⑥ 火遊びはしない、させないこと。
- ⑦ 林内及び林縁部にゴミや廃材、古タイヤなどを放置しないこと。
(放火されないように)

○おわりに

森林は、私たちの暮らしに欠かせない水源涵養や県土の保全など、大切な役割を担っています。小さな火でもひとたび燃え広がれば、大面積の森林を失ってしまうことになり、もとの姿に回復するまでには、何十年もの月日と多大な費用を要します。ふくしまの豊かな森林から山火事を起こさず、次の世代へ着実に引き継ぐため、県民の皆さん一人ひとりの御協力をお願いします。

※1 農林水産部 森林保全課集計

※2 総務省消防庁公表資料（令和六年十一月八日付け）より



森林保険メインキャラクター
たもちい

森林保険は皆さまの森林のセーフティネット

山火事などの災害に備え、森林保険に加入しましょう。くわしくは、最寄りの森林組合、または森林組合連合会へ御相談下さい。

林業研究センターだより

菌床栽培でキノコをつくる
ホンシメジ野生株を発見



野生のホンシメジ

福島県林業研究センター
林産資源部 片野高志

○はじめに

ホンシメジは香りマツタケ味シメジといわれ、マツタケと肩を並べる高級キノコです。

シイタケやナメコ等の樹木を分解して栄養とする腐生菌と違い、ホンシメジは生きた樹木の根と共生して栄養をやりとりする外生菌根菌という種類のキノコです。そのため、本来アカマツやコナラといった宿主なしにはキノコを発生させる事はできないとされてきましたが、押麦を栄養体とすることで、一部の菌株が菌床栽培でもキノコを発生させる能力を持っていることを平成六年に滋賀県森林センターが明らかにしました。このため、福島県でも菌床栽培でキノコをつくる菌株の探索が始まり

ました。

現在、県オリジナル品種として「ふくくしめじ」の愛称で県内で生産・販売されているホンシメジは、平成十年に猪苗代町で採取された福島H106号（以下、H106.）という菌株で、他の菌株よりも収量が多いことや、菌床を野外の簡易ハウス等に置いてもキノコを作りやすく、温度や湿度を一定にコントロールする空調設備を持たない生産者でも自然環境を活かした栽培が可能です。菌株の探索は今も続いており、H106よりも収量が優れている菌株や、キノコを発生する時期がH106と重複しない菌株が求められています。今回は、令和五年度に採取した菌

株について、菌床栽培でキノコをつくる能力があるかを試験しましたので結果をお伝えします。

○試験方法

(1) 野生から採取したホンシメジの組織分離を試み、分離が成功した表1の菌株を拡大培養して種菌を製造しました。

(2) 通常使用する一、四〇〇^{ミリリットル}栽培ビンより小さい四五〇^{ミリリットル}ビンに広葉樹チップ培地（広葉樹チップ・フスマ・押麦 \parallel 一〇・一・四（容量比）（培地含水率は約五六^割）をビンの肩口下まで充填し、高圧殺菌釜で殺菌を行いました。

(3) 殺菌後の培地に各菌株の種菌をそれぞれ八ビンずつ接種しました（種菌の摂取量は一ビンあたり約二〇^{ミリリットル}）。

(4) 室温二二±二℃、湿度約六〇^割程度の培養室で二二〇日間培養後、菌糸の伸長停止や害菌の発生等が見られず培養に成功したビンについて、給水させた鹿沼土で覆土して発生操作を行い、室温一五±二℃、湿度約一〇〇^割の発生室に移して発生管理を行いました。

(5) キノコの発生したビンについて、発生操作から収穫までの日数、発生率、ビンごとのキノコの

菌株名	採取地
LsH-R501	南会津町
LsH-R502	南会津町
LsH-R503	南会津町
LsH-R504	南会津町
LsH-R508	福島市
LsH-R509	福島市
LsH-R510	福島市
H106 (対照区)	猪苗代町

表-1 供試菌株

菌株	発生操作から 収穫までの日数	菌床の本数(ビン)		発生率 (%)	発生した子実体 [*]		備考
		発生操作	発生		本数 (本)	収量 (g)	
LsH-R501	22~23日	7	7	100	8.4±1.7	54.3±6.2	
LsH-R502	25~26日	8	7	88	8.0±2.2	65.3±4.3	
LsH-R503	24日	7	1	14	9.0	58.5	
LsH-R504	-	6	0	0	-	-	
LsH-R508	25~27日	7	7	100	7.7±1.8	40.0±3.4	
LsH-R509	21~23日	8	8	100	11.4±2.3	40.3±4.9	
LsH-R510	22~26日	7	7	100	9.7±2.8	38.8±7.1	
H106	22~23日	7	7	100	10.1±1.3	43.4±4.5	対照区

表-2 各株の栽培結果

※平均値±標準偏差

平均発生本数、平均収量を測定しました。

○試験結果(表-2)

栽培試験の結果、LsH-R504以外の菌株でキノコの発生が確認されました。なお、LsH-R504ではキノコの原基(菌糸が密に集合して出来るキノコの元となるもの)も確認されませんでした。

発生率はLsH-R501、LsHR-508、510で一〇〇%、LsH-R502で八八%、LsH-R503で一四%となりました。

H106と比較した発生操作から収穫までの日数は、LsH-R501が同じ日数、LsH-R509が若干早い日数、LsH-R510が若干遅い日数となりました。LsH-R502、503、LsH-R508はすべてのビンの日数がH106の日数よりも1〜5日遅くなりました。

1ビンごとのキノコの平均本数はLsH-R509でH106よりも一・三本多く、平均収量はLsH-R501、503でH106よりも一〇・九〜二・九^g多くなりました。

○おわりに

菌床栽培でキノコをつくるホンシ

メジの菌株が見つかるのは通常数年に一株というペースであるため、発生率が低いものも含めて、一度に六つの株が見つかった今年度はかなりの当たり年であったと言えます。同じホンシメジでも、並べてみると菌株ごとにキノコの軸や傘の形・色に個性が出ているのが面白いです。なお、今回の試験結果は室内で一定の環境にコントロールされた条件

下でキノコの発生能力があることを確認したものであるため、今後はH106の生産現場と同様に、通常の一、四〇〇^g栽培ビンを使用し、空調栽培だけでなく、自然環境下での栽培試験等で選抜を行うこととなります。

今回の菌株のうちのいずれかが選抜試験を経て、皆様の食卓に並ぶ日が来るかもしれませんね。



写真-1 LsH-R501



写真-2 LsH-R502



写真-3 LsH-R503

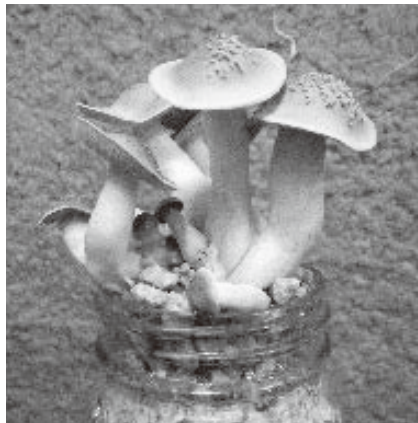


写真-4 LsH-R508



写真-5 LsH-R509



写真-6 LsH-R510



写真-7 H106

二十世紀の林業を担う 林業後継者養成セミナーに参加して

大原林業 水野 研介

○自己紹介とセミナー参加の きっかけ

はじめまして。古殿町の大原林業（だいらんぎょう）の水野研介と申します。私は現在、所有する町

内の山林を中心に、地元のおじさん達三人と共に造林から伐採・搬出の一連の作業を行なっています。宇都宮大学で林業を学んだ後、一度はサラリーマンとして全国を転々としていました。六年ほど前に家業の林業を継ぐために地元に戻ってきました。林業を始めて最初の頃は出来な



自己紹介

おじさん達に少しずつ教わりながら、ようやく一通りの作業が出来るようになってきました。それでもまだまだ技術に課題が多く残っている

ので、努力の日々を送っています。現場での実践で技術を身につけていく一方で、森林・林業に関する新しい知識・情報を身につけていくことも大切だと考え、樹木医などの資格を取り、その協会に属したり、福島県林研グループ連絡協議会などのグループに参加したりすることで、勉強していこうと考えました。そういった中で今回、福島県林研グループ連絡協議会からの案内で「林業後継者養成セミナー」が開催されることを知りました。最初は私のような小規模な林業家に参加していいのかと臆していましたが、せっかく参加資格があることだし、まだまだ長い林業人生の中で、きつと今後役に立つだろうと考え、十五年に一度しか開催されないということもあり、思

い切って参加することに決めました。セミナーは三年間で六回実施され、開催地は栃木県、宮崎県、岩手県、三重県、北海道、高知県と、日本各地の林業地帯で各三日間行われる予定です。このセミナーの目的は、森林・林業、木材産業にかかる全体的な現状や課題などについて、講義と現場での実践研修を通じて学び、林業経営に必要な最新の知識や教養を取得することとされています。

○第二回セミナーで学んだこと

第一回となる栃木県でのセミナーは、令和六年十一月に実施されました。参加者は日本各地から集まった四〇名の経営者・後継者の方々と、中には普段は不動産管理の仕事がメインという方もいました。訪問した先は、栃木県林業大学校、二宮木材株式会社（那須塩原市）、高原林産株式会社（矢板市）、栃木県森林組合連合会鹿沼共販所（鹿沼市）、有限会社高見林業（鹿沼市）、株式会社栃毛木材工業（鹿沼市）でした。各訪問先で様々な事を学びましたが、中でも特に、

①流通・生産システムの工夫、②重労働の軽減とスマート林業・新技術の活用がカギとなっていたように思います。

①流通・生産システムの工夫

大きくて重い木材を扱う、林業・木材産業において、流通・生産にかかる費用はとて大きく、いかに抑えるかが大きな課題と言えます。造林・素材生産を主に行っている高原林産株式会社では、一般の荷物を東京から東北へ運んだ帰りのトラックに、自社を経由してもらい、今度は原木を東京方面に運んでもらうことで、普通より安い運賃で輸送してもらおうという契約を運送会社と結んでいます。ポイントは、帰りのトラックが到着する前に、あらかじめ原木



二宮木材見学の様子



高見林業 見学の様子

を積んだ別のトラックを準備しておくこと。

そうすることで、到着したトラックは積み込み作業をすることなく、そのまま出発でき

るので時間短縮につながりコストが抑えられるそうです。こういった取組などで経営が安定し、若手の入社にも繋がっていて、二二名の作業員のうち九名が二〇代で、今年さらに二名入社することでした。今回訪問した際にお会いしたのは、二〇代の女性二名と男性一名だけで班を組んでいる方で、班長の女性はプロセッサの運転も披露してくださいました。

また、県の森林組合連合会で運営する鹿沼木材共販所では、山から出される原木を、市場で選木やセリにかけることなく、製材所へ直販するという取組を行っています。共販所は仲介するだけで、手数料も市場を通すよりも低く設定されています。川運搬や選木にかかる費用を抑え、川



高原林産の若手職員

上へ利益を多く還元することで、共販所の利用を増やしてもらおうという仕組みになっています。

②重労働の軽減とスマート林業・新技術の活用

林業の仕事の中でも、夏の暑い時期に急斜面で草刈り機を扱う下刈り作業は、最もきつい作業のひとつと言え、作業の省力化が課題となっています。有限会社高見林業では、下刈り作業の軽減のために、ドローンによる除草剤散布を試験的に行っています。この方法では、薬剤の特性上、作業が早朝の三時間に限定され、しかも操縦者や監視者はあまり動く必要がありません。薬剤自体も一般に畑などで使われるものよりかなり弱いものだそうです。それで

も現在、周辺や川への残留が無く安全かどうかの試験を繰り返して、周辺住民への理解を得るために努めています。

また、株式会社栃毛木材工業では、植栽する樹種や方法を工夫して下刈り作業の軽減を試みています。例えばセンダンやコウヨウザン、ビービーツリーに至るまで様々な早生樹を植えてみたり、一、〇〇〇本／畝の低密度で植え付けをしてみたり、スギ・ヒノキの大苗を植え付けてみたりと、様々な方法を試しています。中でもスギ・ヒノキの九〇センチ大苗の植栽は、シカの食害対策にもかなり有効だったそうです。

〇まとめ

この他、今回訪問した先では様々



高見林業 GISの説明



高見林業 ドローンの説明



高見林業 ドローンの様子

な事を学びますが、どの訪問先でも共通して言えることは、今までの常識にとらわれず、新しい技術や方法を積極的に取り入れているという点でした。林業は土地に依存した産業であり、地域に仕事を生み出す大切な仕事です。一方で、どうしてもその土地の慣例にならって「周りと同じことを、今まで通り」に行いがちな面も多くあります。ですが気候も経済も昔とは大きく変わり、夏は以前より暑く熱中症のリスクも上がっていますし、燃料費は高騰し物流や生産にかかる費用も増加しています。そういった中で、それに対策をしていくことは必須であり、時には周りに笑われてしまうような突拍子もない取組も必要になるかと思えます。今回訪問した先々では、そういった取組から、経営の安定や雇用環境の改善だけでなく、やりがいや魅力も生まれることによって、若手が入り、今まで働いていたベテランの方々も刺激を受けてまた変化していく、といった好循環が感じられました。取組によって必ずうまくいくわけではないですが、常に良くなるように変えていこう・学んでいこうという意識を持ち続けることが大切なのだと思います。

林業アカデミーふくしま研修日誌⑨



研修が始まってから九ヶ月目の十二月は、架線集材の資格取得と今年一年の節目として筆記試験を行いました。

○十二月の研修内容

「架線集材」

先月から引き続き資格取得に励み、十二月はじめての学科試験では全員無事合格することができました。実技では、エンドレスタイラー式で架線を張り、集材機の操作と荷掛け作業の実習を行いました。

「広葉樹伐木造材技術」

西会津町のきのこ原木林において、クリとコナラの伐採実習を行いました。針葉樹と比べると枝の伸び方や幹の曲がり方など多種多様な重みを見極めるのが非常に難しく、材に粘りがあるため裂け上がりの危険性があり、思うように伐り進めない様子でした。今年例年よりも積雪が少なかつたものの、下層の笹が雪で滑ることがあり、より注意して作業に臨みました。

「社会人教養（ファシリテーション）」

「実習」

会議やミーティングを円滑に進めるための技法であるファシリテーションについて学びました。会議等で話が行き詰まったときに使用するツールやその使い方も学び、いくつかのケーススタディを使って問題解決に向けて話し合いを行いました。

また、今回のファシリテーション実習を通して、会議等の参加者全員が話し合いに意欲的に参加することが最も重要であることを学びました。

「樹木学」

種子等による樹木の識別について、樹木の種子と竹を活用した門松作りも交えながら理解を深めました。門松の材料は林業研究センター敷地内から全て現地調達し、使う植物を学びながら作成しました。この門松は、一月末までアカデミー玄関に飾っておきますので是非ご覧ください。

「森林・林業政策」

林業に携わるうえで必要となる森林法等の関係法令や森林・林業政策

について学びました。研修では「伐採及び伐採後の造林の届出書」の作成演習を行い、その根拠となる森林法や地域森林計画について理解を深めました。

「社会人教養（筆記試験）」

十二月最終日には二〇二四年の振り返りとして、筆記試験を行いました。今まで学んできたことをしっかりと復習し定着させるため、何度でも振り返ってほしいと思います。

○研修生の感想 石川祐人さん

私は林業アカデミーふくしまで、自分自身が「どういう林業家になりたいか」を考えながらこの一年を過ごしてきました。

私の家系は曾祖父の代から林業をやっており、

私は四代目になります。曾祖父、祖父、叔父のやってきた思いや努力を私は引き継がなければならぬ、生半かな覚悟と努力ではいけません。私は林業



架線集材の様子



広葉樹伐倒の様子

に人生を掛けて、林業で家族を支えられる人間になりたい。そんな覚悟で林業に向き合っています。

しかし、まだまだその答えにたどり着くヒントや鍵も見つけられていません。残り二ヶ月間でその答えにたどり着けるかは正直難しいと思っています。そのため、残り少ないアカデミー生活の中で今まで習った基礎をしっかりと復習し、就職に向けて努力していきます。

事業体に入ってから、最初から全てできる訳ではないので、先輩方の技術などを目で盗み日々成長をしていきたいです。そして、仕事をすすめる中で自分が「どういう林業家になりたいか」を必ず見つけたいと思います。

五感で楽しむ木育事業の取組

福島県県中農林事務所

林業普及指導員 油井 竜太

1 はじめに

福島県では、森林環境税を活用して森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成を図ることとしており、その取組の一つとして、次世代を担う子どもたちに森林・林業や木材に興味を持ってもらうための木育活動を推進しています。今回、須賀川市の県森林環境交付金（基本枠）事業において、木製品で地域活性化に取り組む株式会社アサヒ研創（郡山市）の協力のもと、保育施設を対象とした木育出前講座を実施しましたので、その取組について紹介します。

2 取組の内容

(1) 事前調整

出前講座のツールとして、幼児でも組み立てられる県産材のカスタネットキットに着目し、製品を製造・販売していた株式会社アサヒ研創と調整のうえ、キットの納品、出前講座への派遣等について協力を得ました。

(2) 木育プログラムの検討

対象を園児としたため、なるべく遊びを取り入れたプログラムの検討を行い、事前に協力いただいた須賀川市内の3園でプレ出前講座を実施し、改良を重ね、右表のとおり決定しました。

(3) 木育出前講座の実施状況

令和6年12月末時点で、須賀川市内の保育施設において、5園、園児（4歳～5歳）のべ102名を対象に実施しました。子どもたちはカスタネットをゴシゴシ磨いたり、匂いを嗅いだり、叩いては「いい音」と大はしゃぎで、手づくりの楽しい時間を過ごしました。園へのアンケートの結果、

「木の良さや木材利用の意義などを知る良い機会だった」、「今後も継続して実施してほしい」など、満足度の高い回答を得ることができました。カスタネット製作を通して木の良さを実感するとともに、演奏会を組み合わせることで、五感で楽しむプログラムとすることができました。

今回は木の種類による音の違いなども体感して欲しいと考えています。

プログラム名	ふくしまの木のカスタネットをつくって遊ぼう! (60分)
ね ら い	福島県の木である県産ケヤキを使ったオリジナルカスタネットづくりをとおして、木の感触・香り・木目等を五感で感じながら、木のやさしさや、手作りする楽しさを実感してもらう。
対 象	4～5歳児
プログラム内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 導入 <ul style="list-style-type: none"> • 木育紙芝居の読み聞かせ（身の周りにある木への気付き） 2 カスタネットづくり <ul style="list-style-type: none"> • 紙やすり加工→組み立て→絵付け 3 演奏会 <ul style="list-style-type: none"> • 作ったカスタネットを使っての演奏会 4 感想、ふりかえり

3 今後の取組

園児を対象とした木育出前講座は、木材に対する親しみや木の文化への理解を深める重要な機会です。私たち普及員が出前講座を実施していくなかで、園児たちの真剣なまなざしや素晴らしい笑顔にたくさんの元気をもらい、大変充実した活動となりました。

今後、この木育活動を広く普及していくため、他市町村や連携可能な団体等へ積極的な働きかけを行い、木製玩具遊び体験や、身近な木を使ったものづくり、くらしの中に木を取り入れるなど、木育の推進に務めて参ります。



木育紙芝居の読み聞かせ



木製カスタネットづくり



演奏会



園児が製作したカスタネット

福島県林業労働力確保支援センターだより 林業担い手確保のための取組

◎はじめに

当センターは、担い手の確保・育成・定着を目的に、就業希望者の就業促進のための様々な支援をしています。今回は、今年度の林業担い手確保のための取組について紹介します。

◎就業ガイダンスの実施

林野庁の「緑の雇用」新規就業者育成推進事業により、全国森林組合連合会が実施している各種ガイダンスに積極的に参加しています。

①森林（もり）の仕事ガイダンス

林業への就業希望者や森林・林業に興味のある方を対象に、林業就業についての情報提供や仕事の内容の説明を行う就業相談会です。今年度は、九月二二日（土曜日）と二二日（日曜日）に、東京国際フォー



森林の仕事ガイダンスでの相談対応
(東京国際フォーラム)

ラムで開催され、全国から四都道府県が参加しました。当日の相談者は六九七名で、うち当県への相談者は十四名（男性十二名、女性二名）でした。相談会では本県の森林・林業の情報や林業の仕事内容、事業者の情報、ハローワーク等求人状況、緑の雇用制度、居住環境情報・移住に関する支援、エリアガイダンスの開催などについての相談に対応しました。

②エリアガイダンス

当センターとしては、一昨年度から取り組んでおり、現在、全国で二七道府県がそれぞれ実施しています。今年度は、令和七年二月一日（土曜日）に、ビッグパレットふくしまを会場として、福島県森林組合連合会および磐城林業協同組合を含めて県内の十一事業者・団体の参加をいただき実施する予定です。

各事業者・団体から直接雇用に関する話ができるようになったに、貴重な機会となっています。就業を考えている方や興味のある方は是非参加してください。

③マッチング支援

森林の仕事現場見学 in 福島

②と同様に一昨年から取り組んでおり、現在、全国で十二道県がそれぞれ実施しています。

今年度は、十一月三〇日（土曜日）

に、平田村下蓬田地内で開催し、伐採作業等の見学・就業者との意見交換等を行いました。

当日の参加者は、県外の方を含め七名で、小雨交じりの天候ではありませんでしたが、参加者は熱心に伐採作業等を見学するとともに、現場で作業を行って



森林の仕事現場見学での伐採作業等見学
(平田村下蓬田地内)

◎林業就業支援講習の実施

厚生労働省の農林業職場定着支援事業（林業就業支援事業）により、全国森林組合連合会が委託事業として全国で実施しています。三日間講習と十二日間講習があり、三日間講習は、八月二七日～二九日に郡山市において実施し、三名の参加がありました。林業の基礎知識の講義、林業作業の体験、施設見学などを行いました。

また、十二日間講習は、令和七年一月十六日～三十一日に実施しました。講習の内容は、林業に関する基礎知識・安全衛生講習・資格取得（チェーン

ソー・刈払機・小型車両系建設機械）・林業作業の実地講習・林業関係施設等の見学・職業相談で、就業に向けて大変充実したものとなっています。

◎その他の就業促進に対する支援

当センターでは、磐城林業協同組合との共同改善計画に基づく委託募集制度を活用し、任期付自衛官や就業相談者に求人情報を随時提供して募集活動を行っています。

また、「緑の雇用」総合ウェブサイ
トRINGYOU.NETを活用したオンライン就業相談に対応しています。また、インターネットハローワークの求人情報を分かりやすく編集して一覧表形式に取りまとめ掲載し、広く利用いただいています。

さらに、福島県林業祭の併催行事として、「森林（もり）の仕事ミニガイダンス」を開催しています。今年度は、十月二六日（土曜日）に林業アカデミーふくしま研修棟にブースを出展し、林業への就業希望者を対象に、就業についての情報提供や仕事の内容の説明を行う就業相談を行いました。

◎終わりに

これらの林業担い手確保に向けた取組のほか、SNS等を活用した林業就業に向けた広報活動、技能者育成のための「緑の雇用」などの研修等への支援、事業者が行う雇用管理改善と事業の合理への相談などにより、福島県の林業を担う人材の確保・育成・定着に積極的に取り組んで参りますので、今後も当センターの取組に対してご協力ご支援をよろしく願います。

木連だより

WOODコレクション(モクコレ)2024 Plusに出展しました

福島県木材協同組合連合会

昨年8月の「JAPAN ReWOOD」に続き、12月19日・20日に東京ビッグサイトで開催されたWOODコレクション(モクコレ)2024 Plusに県木連ほか木材関連企業が出展し県産材製品の展示PRを行いましたので、その内容を紹介します。

この展示商談会は、国産木材の活用促進のため、東京都の主催で全国の地域材を活用した木材製品の展示及び森林・林業の魅力を発信することを目的に開催されるもので、今回は「日本の木×SDGs ―国産木材の可能性と未来―」をテーマに、「植える→育てる→収穫する→使う」という森林の循環への寄与を目的に、38都道府県、約300の企業・団体が参加し、2日間で約5,700名の来場者が訪れました。

福島県ブースには県木連のほか、タテログ推進協議会本部、株式会社松竹工芸社、南会津広葉樹流通協議会が出展し、針葉樹だけでなく広葉樹や桐を活用した様々な福島県産材製品のPRを行いました。

県木連のコーナーでは、(株)赤井製材所へ製作を依頼したヒノキの角ログによる木製パーテーションを設置し、郡山地区木材木工工業団地(協)、(協)いわき材加工センター、江戸川ウッドテック(株)、木材青壮年協会いわき支部、協和木材(株)の協力のもと、木製家具や遊具、床材等の展示を行うとともに、いわき材加工センターで開発・普及を進めている無垢の大径材製材品の展示が行われ、多くの来場者の関心を集めたところでした。

また、県木連では福島県産材を安全に使うために、現在行っている放射性物質検査の取組等について、パンフレットを配布し説明を行いました。

他県のブースでも様々な製材品や木工品などの展示販売が行われ、展示方法にも工夫を凝らしたものが多く大変参考となったところです。県木連では今後もこのような機会を通じて、県内外に本県産材製品の普及PRに努めていくこととしておりますので、引き続き関係者の皆様のご協力をお願いします。



県木連コーナー全景



無垢大断面製材品の紹介



いわき産木材の紹介

木の文化を育む⑦

「竹」を活かす暮らし〜五感を磨く里山体験〜
(里山体験 なんだべ村)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

「竹」は成長が速く、古くからカゴなどの日用品や建材として幅広く使用されてきました。しかし高度経済成長期以降、プラスチックなどの代替品が利用されるようになり需要が減少した竹は、近年「竹害」を引き起こすまでに繁茂し問題となっています。里山の環境を劣化させる「やっかいもの」として扱われている「竹」を地域資源として持続的に有効活用し、私たちの暮らしで活かしてゆく知恵が望まれます。

○安心安全な農作物

「里山体験 なんだべ村」(郡山市)は、JR郡山駅から車で二〇分ほどの都市部に近い逢瀬町に位置しています。自然豊かなフィールドを活かし「生きる」をテーマに里山生活や安心安全な農業体験ができます。

里山体験 なんだべ村の石井忠勝さん(郡山市)は農薬アレルギーのため、無農薬で農作物を育てたいとい

う想いから、平成十年に炭焼きを学び始めました。竹を炭焼きにして竹炭を作り、その際に発生する煙を冷却して得られた竹酢液を土壌改良や農作物の活性剤、病気予防、害虫駆除など、幅広い用途で活用します。

また竹を粉碎して竹チップや竹パウダーをつくり、田畑の土づくりにも使用しています。竹パウダーの発酵を促すと嫌気性の乳酸菌が育ち田畑の土壌改良に役立ちます。「土づくりにこだわり育てた農作物は旨味や甘味があり、えぐみが出ない」と石井さん。里山の竹を暮らしの中で上手に活用し、安心安全な農業を実践しています。

○里山フィールドづくり

石井さんは炭焼きを通して、地域の環境活動にも積極的に参加するようになりました。さまざまな出会いから自然発生的に石井さんの自宅でもある里山のフィールドが交流の場となり、平成十八年十二月に石井さ

んは当時の逢瀬田舎体験交流協議会のメンバーと共に体験型農家民宿をオープンしました。当時は「農家民宿 やまちゅう」としてオープンしましたが、「なんだべ?」とわからないことを気軽に聞いたり、興味を持ってほしいという想いで、現在の「なんだべ村」に改名しました。諸事情により昨年春から民宿は休業していますが、なんだべ村には県内外より多くの人々が足を運び、ホテル観賞会や農業体験、生き物観察会、親子木工体験などの里山体験をとおして四季の移ろいを楽しんでいます。「多くの人とのお会いをとおして、自分では気づけなかった郡山の魅力を知り、さまざまなアイデアをいただき支えられながら、なんだべ村を育てています」と石井さん。

○五感を磨く里山体験

「里山体験 なんだべ村」を訪れた人々は、里山と人間の生活を顧みる機会に恵まれます。

減農薬・完全無農薬で育てた野菜を皆で収穫し調理したり、石窯でピザづくりをしたり、里山散策をしながら採った山菜をてんぶらにして食べる楽しみも味わえます。また里山の竹で竹皿や竹コップ、箸などをつくり、ノコギリやナタなどの道具の使い方も学びます。石井さんはこう

した。五感を磨く里山体験。をとおして、楽しみながら自然災害に対する危機感や生き延びる術も伝えています。また、子どもたちのより良い未来を願いながら、自然遊びの楽しさや危険を察知する能力が育まれるよう、日々「里山体験 なんだべ村」のフィールドづくりに励んでいます。

○まとめ

里山暮らしの知恵を多くの人々と共有し地域資源を有効に活用することで、里山の豊かさや魅力に気づきます。貴方も「里山体験 なんだべ村」へ足を運んでみませんか。



ミニ門松づくり



自然遊び(川遊び)

県森連いわき共販における木材市況（1月分）

令和7年2月1日
福島県森林組合連合会

(単位：㎡当り千円)

樹種	素材				摘要
	長級 (m)	径級 (cm)	高値	低値	
スギ	4.00	9下	12.0	11.5	
		10~13	14.0	13.5	
		24上	14.8	12.5	
	3.65	16上			
		24上	12.5	12.0	
	3.00	9下	10.2	8.0	
		10~13	10.5	10.3	
		14~16	13.6	13.0	
		18~20	18.9	17.0	
	6.00	22上	18.8	16.0	
16~20		15.3	15.0		
2.00	16上	7.5	6.0		
ヒノキ	4.00	10~13			
		14~16			
		18~20			
		22上			
3.00	16~20				
アカマツ	4.80	18~22			
	4.00	18~22	12.0	11.5	
		24上	12.0	11.5	
	3.00	16~22	12.0	11.5	
24上		12.0	11.5		

樹種	素材				摘要
	長級 (m)	径級 (cm)	高値	低値	
カラマツ	4.00	12下			
		13~14			
		16上			
クリ	4.00	16上			
	3.00	16上			
モミ	4.00	20上			

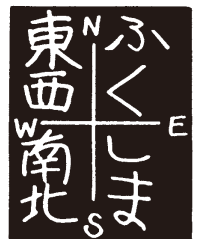
市況概要と市況展望	2月の共販日
販売量は3,054㎡（前年同月比84%）でした。 市況は、前月同様スギ3m柱材、中目材、4m中目材等、初市から活発に取り引きされました。価格も良い状況が続きました。 先行き、この状況が続くことに期待したいです。	6日(木) 17日(月) 27日(木)

行事とお知らせ
県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。 <div style="text-align: right;"> 福島県森林組合連合会 木材市況 検索 </div>

東京オリンピックピック・パラリンピックで選手たちの生活を支えた県産材が、福島県立猪苗代高等学校でレガシー利用されています。レガシーとは遺産という意味であり、東京五輪において、全国の自治体から提供された選手村の施設に使用された木材が、再び提供元の都道府県で活用されています。

今回取材した福島県立猪苗代高等学校は全校生徒五六人で、地域の課題を解決する力を育み、地域と連携・協働して学校を運営していく地域協働推進校に指定されています。令和四年度に譲渡された木材三・七立方と木製ベンチ八基を利用して、破損が目立っていた旧音楽室内の壁や床を張替え、ベンチを配置することで、高校生や地域の方が訪れるアートルームが誕生しました。

アートルームは猪苗代町で行われるウォールアートフェスティバルが開かれるなど、生徒が芸術に触れる体験の場として利用されており、四方の壁いっぱい壁画が描かれた空間は、明るくどこか独特の雰囲気がありました。



レガシー材を使った部屋とベンチ



材に刻まれたロゴ

かつてスポーツ選手たちを支えたレガシー材はいま、生徒や地域の方、アーティスト、アートが交流する場の一部となって人々を静かに迎えています。猪苗代高校のアートルームを訪れる機会がありましたら、アートを楽しみながら木材と刻まれた五輪エンブレムを探してみてください。

案内をしていただいた遠藤教頭先生からは、「無機質にパイプ椅子などが並ぶよりも、ぬくもりのある木の素材がルーム内の景観に合っている。アートを楽しむ空間に調和し一体感がある。」とのお話をいただきました。

福島県会津農林事務所 加藤 愛 惟

五輪レガシー材の新たなスタート
猪苗代高等学校編

表紙の写真



「春雪の中で」

第21回ふくしま森林・林業写真コンクール 入選
 受賞者 河野善次さん（福島市）
 撮影場所：伊達市霊山町石田行合道
 コメント：祭日の朝、雪が止んだ所で材木出しが始まる。

発行人
 飯沼隆

陽光社印刷株式会社
 （定価 一〇〇円）

編集

福島県内四森林管理署
 福島県森林・林業・緑化協会

福島県森林組合連合会
 福島県木材協同組合連合会

福島県農林種苗農業協同組合
 ふくしま緑の森づくり公社

森林研究整備機構福島水源林整備事務所
 福島県森林・林業・緑化協会

福島市中町五番一八号県林業会館内

福島県森林・林業・緑化協会

福島県森林・林業・緑化協会

はなしの
 ひろば

にゃんともいい話

二月二三日猫の日

今の家猫と暮らしてから十四年になる。まだ目が開かない内の拾い猫で、ミルクをあげながら育ててきた。その猫「かなな」は、人間に育てられているので、自らが同類と思っているふしがある。

気がつけば、ここ二五年の間、我が家の暮らしには猫がいた。それぞれの猫に個性があり、十猫十色で、感情表現もそれぞれだが、猫は警戒する時、不安な時は、一律に耳を少し後ろに向け、傾ける（いか耳という）。その時は要注意だ。そして、かななは、撫でずとも機嫌よく話かけただけで「ゴロゴロ」と喉をならす。こちらの感情をお見通しで、かななの方が本能的に繊細だ。しかし、猫の感情を深く読もうとすると疲れるので「喜怒哀楽」の感情四分割の細部はいい加減に感じとり、その距離感をよしとしている。

ところで、最近、地域猫活動の話を目や耳にする機会が増えてきた。「生命を受けた猫たちができるだけ地域で快適に長生きできるように。そして、将来的に飼い主のいない猫を減らすこと」。

二〇二二年六月、宮崎市では「動物との共生に関する条例」を制定した。行政側で「共生」と「動物の命と向き合うこと」の仕組みを具体的に作ったことは、素晴らしい、とてもやさしい。

夕方、仕事が終わって帰宅したら、今日とてもいい話を仕入れてきた、とかななにも聞かせよう。「共生って、お互い大切に思って生きることだよ。かななは、拾われた時から学んでいるけどね……！」と少しいか耳だが、目が即答する。

同類よ、ごもつとも、である。

第一四一話（都）

お知らせコーナー

第39回ふくしま緑の写真コンクール表彰式開催

緑の素晴らしさ、大切さを広めていくため1985年に選定しました「ふくしま緑の百景」を中心に豊かな自然を題材として募集を行った「第39回ふくしま緑の写真コンクール」の表彰式が昨年12月7日（土）に福島民報社において行われました。

今回も、県内各地より幅広い年齢層の皆様から552点に及ぶ多数のご応募をいただきました。どの作品も、奥山から里山の森林や動植物、家族での身近な公園散策など、四季折々の素晴らしい一瞬を切り取られ、緑へ寄せる熱い想い、ふるさとへの深い慈しみを感じることのできる力作です。

特選及び金賞の受賞者及び作品は次のとおりです。また、銀賞、銅賞、入選、佳作まで全52点については、福島県森林・林業・緑化協会のホームページにカラーで掲載しております。下記二次元コードよりアクセスできますので、是非ご覧ください。

賞	氏名	住所	テーマ
特選	藤田 健三	福島市	爽やかな朝
	河野 善次	福島市	竹林の春雪
金賞	梅津 文子	福島市	ゾウの鼻（花）
	堀越 靖	郡山市	地上の星
	片桐 勝美	喜多方市	朝陽と妖精の森
	秋葉 克彦	伊達市	春の装い

※上記含め銀賞等全52作品については、当協会ホームページをご覧ください。



特選の表彰を受ける藤田さん



特選「爽やかな朝」



各写真掲載ページ

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》



たもち

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合



そりりん

イワフジのGPシリーズ
グラップルプロセッサ

GP-35B

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

製品情報



傾斜地に対応した全回転チルトプロセッサ

- ・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全回転ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材
- ・GP-CAN コントローラを搭載
- ・新開発のスタッドローラ

For the future with forest



イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



(仙台支店) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
(支店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中国・九州



東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245
郡山office 郡山市富田町後久保60-1 TEL 024-961-1961

<https://t-copy.co.jp>



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW

SR3100



破碎径：200mm 出力：18.4kW

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ 林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1